

別紙様式 2

図書館情報メディア系リサーチグループ研究成果報告書

提出日 平成 30 年 9 月 28 日

リサーチグループの名称	
情報プラクティス (iPractice) (Information Practice (iPractice))	
リサーチグループ設置期間	
平成 25 年 8 月 ～ 平成 30 年 7 月	
リサーチグループ構成員	
所 属 ・ 職 名	氏 名 (*は代表者)
図書館情報メディア系・教授	佐藤哲司
図書館情報メディア系・准教授	*上保秀夫
図書館情報メディア系・准教授	関 洋平
図書館情報メディア系・准教授	高久雅生
図書館情報メディア系・准教授	手塚太郎
図書館情報メディア系・講師	松林麻実子
図書館情報メディア系・助教	松村 敦
研究目的	
本リサーチグループは、情報メディア社会における情報実践の実態調査、認知および行動データ解析、支援システムの開発と評価を通して、社会的文脈を考慮した情報利活用におけるベストプラクティスの確立を目的とした研究活動を行った。	
研究成果	
社会的文脈を考慮した情報利活用におけるベストプラクティスの確立までは未だやるべきことは多い。しかし、情報実践の趣旨である社会的文脈を考慮するという視座に立った研究を幅広くすすめることができた 5 年間であった。また、情報学分野における国内外の代表的な学会や研究会において、本グループメンバーが共同で運営を行ったワークショップや特別セッションを開催することができた。本グループの関連発表業績総数は 100 件を超え、一定の成果を得た。	
代表的な研究発表・特許等の成果一覧、特記事項等	
平成 30 年度(7月まで)	
平成 30 年度は、以下の研究成果を国内外において精力的に発表した。	
・ 会話し情報検索に関する国際ワークショップ主催を通して、研究コミュニティの発展に	

寄与(業績 [1])

- ・ オンラインショッピングや脳波解析などにおける深層学習を含む機械学習手法の開発とその評価(業績 [2][3][5][6][7])
- ・ 検索結果の多様化や順位付け手法の高度化と評価(業績 [4][8])
- ・ DOI や LOD など文書ネットワークデータの活用や芸術作品のメタデータスキーマに関する研究(業績 [9][10][11])

【ワークショップ主催】

1. Jaime Arguello, Filip Radlinski, Hideo Joho, Damiano Spina, and Julia Kiseleva. 2018. Second International Workshop on Conversational Approaches to Information Retrieval (CAIR'18): Workshop at SIGIR 2018. In The 41st International ACM SIGIR Conference on Research & Development in Information Retrieval (SIGIR '18). ACM, New York, NY, USA, 1435-1437.

【書籍】

2. 手塚太郎, しくみがわかる深層学習, 朝倉書店, 2018年6月.

【査読付き論文誌】

3. Taro Tezuka, Multineuron spike train analysis with R-convolution linear combination kernel, Neural Networks, Vol. 102, pp. 67-77, Elsevier, June 2018. [DOI: 10.1016/j.neunet.2018.02.013]
4. Haitao Yu, Adam Jatowt, Roi Blanco, Hideo Joho, Joemon M. Jose: Revisiting the Cluster-based Paradigm for Implicit Search Result Diversification. Inf. Process. Manage. 54 (5): 507-528 (2018)

【査読付き国際会議】

5. Yuri Nozaki and Tetsuji Satoh: Category Classification Methods Reflecting Item's Search Behaviors in Online Shopping Sites, 9th International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2018), in conjunction with 7th International Congress on Advanced Applied Informatics, 6 p., Yonago, Tottori (July 8-10, 2018).

【学会発表】

6. 宮原捺希, 手塚太郎, 中内靖, 隠れマルコフモデルを用いたテニスにおけるラリー系列からのパターン発見, 第 32 回人工知能学会全国大会, 鹿児島, 2018年6月5日-8日.
7. 滑川静海, 手塚太郎, 遺伝的アルゴリズムによるシューティングゲームにおけるゲーム AI, 第 32 回人工知能学会全国大会, 鹿児島, 2018年6月5日-8日.

8. 高久雅生, 小幡将司, 江草由佳. OPAC 利用ログに基づく文献検索システムの試作と評価. 第 26 回情報知識学会年次大会, 東京, 情報知識学会誌, vol.28, no.2, pp.111-120 (2018-05)
9. 吉川次郎, 高久雅生. 英語版 Wikipedia における DOI リンクの初出時点の分析: 研究分野を中心に. 情報メディア学会第 17 回研究大会, 東京, pp.25-28 (2018-06)
10. 叢艶, 高久雅生. 唐詩作品の本文フルテキストに対する TEI マークアップ手法の提案. 第 26 回情報知識学会年次大会, 東京, 情報知識学会誌, vol.28, no.2, pp.174-185 (2018-05)

【その他】

11. 江草由佳, 高久雅生. 教科書 Linked Open Data(LOD)の構築と公開. 情報の科学と技術, vol.68, no.7, pp.361-367 (2018-07)

平成 29 年度

平成 29 年度は、以下の研究成果を国内外において精力的に発表した。

- ・ 情報検索、音声対話システム、ライフログなど複数領域において招待講演、国際会議・ワークショップ主催、サマースクール開催などを通して、研究コミュニティの発展に寄与(業績 [1][2][3][4][5][6][7][8])
- ・ ログデータやグラフ構造に着目したデータマイニングやパーソナライゼーション手法に関する研究(業績 [11][13][14][20][21][23])
- ・ ウェブ資源をベースとした知識の体系化とネットワーク化、および検索結果の多様化に関する研究(業績 [9][12][17][24][32])
- ・ ソーシャルネットワーク、E コマース、学術基盤における多様なグループダイナミクスに関する研究(業績 [10][18][19][22][30])
- ・ 音声インタラクションを含む情報検索行動におけるメタ認知や情報ニーズ同定に関する研究(業績 [15][16][26][29])
- ・ こどもや絵本を中心とした推薦行動や推薦システム、および情報消費行動に関する研究(業績 [25][27][28][31])

【国際会議・ワークショップ・サマースクール主催】

1. Noriko Kando, Tetsuya Sakai, Hideo Joho, Hang Li, Arjen P. de Vries, Ryen W. White: Proceedings of the 40th International ACM SIGIR Conference on Research and Development in Information Retrieval, Shinjuku, Tokyo, Japan, August 7-11, 2017. ACM 2017, ISBN 978-1-4503-5022-8
2. Hideo Joho, Lawrence Cavedon, Jaime Arguello, Milad Shokouhi, Filip Radlinski: First International Workshop on Conversational Approaches to Information Retrieval

(CAIR'17). SIGIR 2017: 1423-1424

3. Hideo Joho, Lawrence Cavedon, Jaime Arguello, Milad Shokouhi, Filip Radlinski: CAIR'17: First International Workshop on Conversational Approaches to Information Retrieval at SIGIR 2017. SIGIR Forum 51(3): 114-121 (2017)
4. Makoto P. Kato, Takehiro Yamamoto, Hideo Joho, Masatoshi Yoshikawa: Asian Summer School in Information Access (ASSIA 2017). SIGIR Forum 51(3): 88-93 (2017)
5. Roi Blanco, Hideo Joho, Adam Jatowt, Hai-Tao Yu and Shuhei Yamamoto Overview of NTCIR-13 Actionable Knowledge Graph (AKG) Task. NTCIR 2017.
6. Cathal Gurrin, Hideo Joho, Frank Hopfgartner, Liting Zhou, Duc-Tien Dang-Nguyen, Rashmi Gupta and Rami Albatat: Overview of NTCIR-13 Lifelog-2 Task. NTCIR 2017.
7. Frank Hopfgartner, Cathal Gurrin, Hideo Joho: Enabling Research and Innovation Beyond Continental Borders: A Case for Satellite Events in Evaluation Campaigns. ERCIM News 2017(108) (2017)

【招待講演】

8. 上保秀夫.[招待講演] 協調検索作業の会話に潜在する情報ニーズ.人工知能学会 第 81 回 言語・音声理解と対話処理研究会(第 8 回対話システムシンポジウム). 2017.10.12-13.

【著書】

9. 高久雅生. 知識をリンクする技術. 逸村裕 (編), 田窪直規 (編), 原田隆史 (編), 図書館情報学を学ぶ人のために, 第 19 章, 世界思想社, 京都, pp.201-213 (2017-04) (ISBN:978-4-7907-1695-2)

【査読付き論文誌】

10. 柘植 大, 佐藤 哲司, 伏見 卓恭, 神門 典子: ソーシャルネットワークを活性化する『聞き役』ユーザの発見, 情報社会学会誌, Vol. 12, No. 1, pp. 53-62 (July 2017)
11. Keiko Kurata, Mamiko Matsubayashi, Shinji Mine. Identifying the Complex Position of Research Data and Data Sharing Among Researchers in Natural Science. SAGE OPEN, 7(3), 2017-07
12. Haitao Yu, Adam Jatowt, Roi Blanco, Hideo Joho, Joemon M. Jose: An in-depth study on diversity evaluation: The importance of intrinsic diversity. Inf. Process. Manage. 53(4): 799-813 (2017)

【査読付き国際会議】

13. Kouga Kobayashi, Yuri Nozaki, Takayasu Fushimi, Tetsuji Satoh: Category Reformation using Purchase Logs, Proceedings of 19th International Conference on

Information Integration and Web-based Applications & Services, ii- WAS2017, pp. 146-150, Wyndham Grand Salzburg Conference Centre Hotel, Salzburg, (Dec. 4 - 6, 2017).

14. Kazufumi Inafuku, Takayasu Fushimi, Tetsuji Satoh: Graph Generation Method Based on Relative Value of Neighbor Edges, Proceedings of 19th International Conference on Information Integration and Web-based Applications & Services, iiWAS2017, pp. 358-368, Wyndham Grand Salzburg Conference Centre Hotel, Salzburg, (Dec. 4 - 6, 2017).

15. Johanne R. Trippas, Damiano Spina, Lawrence Cavedon, Hideo Joho and Mark Sanderson: Informing the Design of Spoken Conversational Search. CHIIR 2018: 32-41.

16. Sosuke Shiga, Hideo Joho, Roi Blanco, Johanne R. Trippas, Mark Sanderson: Modelling Information Needs in Collaborative Search Conversations. SIGIR 2017: 715-724

17. Hai-Tao Yu, Adam Jatowt, Roi Blanco, Hideo Joho, Joemon Jose, Long Chen, and Fajie Yuan: A Concise Integer Linear Programming Formulation for Implicit Search Result Diversification. WSDM 2017: 191-20

【査読付き国内会議】

18. 柘植 大, 佐藤 哲司, 伏見 卓恭, 神門 典子: ソーシャルネットワークを活性化する『聞き役』ユーザの発見, 情報社会学会 2017 年 年次研究発表大会, Vol. 12, No. 1, pp. 53-62, 東京大学本郷キャンパス 東京大学情報学環・福武ホール ラーニングシアター, 文京区本郷 (July 29, 2017).

【国内学会発表】

19. 柘植 大, 佐藤 哲司, 伏見 卓恭, 神門 典子: ソーシャルネットワークを活性化する『聞き役』ユーザの発見, 情報社会学会 2017 年 年次研究発表大会, Vol. 12, No. 1, pp. 53-62, 東京大学本郷キャンパス 東京大学情報学環・福武ホール ラーニングシアター, 文京区本郷 (July 29, 2017).

20. 稲福 和史, 伏見 卓恭, 佐藤 哲司: 近傍エッジとの関係に着目したグラフマイニング手法の提案と評価, 電子情報通信学会 データ工学研究専門委員会 他共催, 第 10 回 データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム DEIM2018, J2-5, 清風荘 福井県あわら市 (Mar. 4-6, 2018).

21. 野崎 祐里, 佐藤 哲司: オンラインショッピングにおけるクエリ遷移ログの解析手法の提案, 電子情報通信学会 データ工学研究専門委員会 他共催, 第 10 回 データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム DEIM2018, D4-2, 清風荘 福井県あわら市 (Mar. 4-6, 2018).

22. 稲福 和史, 伏見 卓恭, 佐藤 哲司: EC サイトにおける購買行動の成長分析, 情報処理学会, マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2017) シンポジウム論文集, pp. 1107 - 1113, 札幌市, 定山溪万世閣ホテルミリオーネ (June 28-30, 2017).
23. 嵐一樹, 手塚太郎, 画像処理を用いたパーソナライズドコーディネートシステム, 第 10 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(第 16 回日本データベース学会年次大会), 福井, 2018 年 3 月 4 日-6 日.
24. 吉川次郎, 高久雅生. Wikipedia における DOI リンクの経年変化の予備的分析. 第 22 回情報知識学フォーラム, 東京, 情報知識学会誌, vol.27, no.4, pp.329-336, 2017 年 12 月 2 日, https://doi.org/10.2964/jsik_2017_036
25. 奥出夢美, 松村敦, 宇陀則彦. まじょのでし:図書との出会いを演出する子ども向け図書推薦サービス. 第 10 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2018), P6-01, (2018.3).
26. 椎名智紀, 松村敦, 宇陀則彦. 情報探索における情報の欠落を想起する視覚的フィードバック. 第 10 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2018), P5-06, (2018.3).
27. 三島悠希, 松村敦. ソーシャル絵本推薦システムにおける他者の推薦行動の可視化. 日本教育工学会第 33 回全国大会,2017 ,p.769-770.
28. 内田早紀子, 松村敦. ソーシャル絵本推薦システムにおける質問のカテゴリに着目した推薦傾向の分析. 日本教育工学会第 33 回全国大会,2017 ,p.771-772.
29. 青山 優里彩, 松村 敦, 宇陀 則彦.Web 情報検索における効果的なメタ認知支援手法の検討~認知的負荷に着目した検索プロセスの分析~ARG 第 10 回 Web インテリジェンスとインタラクション研究会, 2017, p.55-56.

【その他】

30. Mamiko Matsubayashi, Keiko Kurata. Conceptual design for comprehensive research support platform. The First IEEE Workshop on Human-Machine Collaboration in BigData (HMData2017). 2017-12-11
31. Mamiko Matsubayashi, Masaki Takeda, Atsushi Toshimori. Does online news consumption encourage social inclusion or exclusion? ASIS&T 17th SIGUSE Research Symposium. 2017-10-27
32. Roi Blanco, Hideo Joho, Adam Jatowt, Haitao Yu: Test Collection for Evaluating Actionable Knowledge Graphs. KG4IR@SIGIR 2017: 32-37

平成 28 年度

平成 28 年度は、以下の研究成果を国内外において精力的に発表した。

・ 知識情報学、Information Schools、図書館情報学、マルチメディアなど複数領域におい

て、情報プラクティスに関するワークショップを企画・主催(業績 [1][2][3][4])・学習・検索・調理・共同作業など幅広いユーザ行動の理解と予測技術の開発と評価

([5][6][7][9][10][12][17][23])

・ 図書館を背景としたレファレンス行動解析や推薦技術の開発と評価、およびオープンアクセスの動向調査([8][20][21][24][25])

・ 検索意図に着目した支援システムや検索アルゴリズムの開発と評価([13][14][19][26])

・ ソーシャルメディアを背景としたユーザの情報発信行動やコミュニティ形成に関する研究([11][18][22])

・ 情報アクセス技術評価のためのテストコレクションの構築([15][16][27][28])

【ワークショップ・企画セッション】

1. 高久 雅生・松村 敦「情報実践研究の最新動向」情報知識学会・第 24 回(2016 年度)年次大会合同企画セッション(座長: 宇陀 則彦)

・ 講演 1「情報行動から情報実践へ」松林 麻実子

・ 講演 2「ライフログテストコレクション」上保 秀夫

2. Hideo Joho, Cathal Gurrin, Frank Hopfgartner: Interaction and engagement for 2nd information research and learning with lifelogging devices. iConference 2017.

3. Hideo Joho, Cathal Gurrin, Jannica Heinstr  m, Mamiko Matsubayashi: Information Practices Meet Lifelogging Technologies: Towards A Successful Multimethod Research Framework. ASIST 2016: 1-4

4. Gurrin, C., Giro-i-Nieto, X., Radeva, P., Dimiccoli, M., Johansen, H., Joho, H., and Singh, V. K. (2016)“LTA 2016 - The First Workshop on Lifelogging Tools and Applications”. In: Proceedings of the 24th ACM Multimedia Conference, Amsterdam, the Netherlands.

【査読付き論文誌】

5. 手塚 太郎, 清野 悠希, 古谷 遼平, 佐藤 哲司, 姿勢計測による e-learning 受講者の行動推定, 知能と情報(日本知能情報ファジィ学会誌), Vol. 28, No. 6, pp. 952-962, 2016 年 12 月.

6. Haitao Yu, Adam Jatowt, Roi Blanco, Hideo Joho, and Joemon M. Jose: Decoding Multi-Click Search Behavior Based on Marginal Utility. Information Retrieval Journal, 20(1): 25-52 (2017)

【査読付き国際会議】

7. Ryohei Furutani, Yuki Seino, Taro Tezuka, and Tetsuji Satoh, Monitoring the Level of Attention by Posture Measurement and EEG, Proceedings of the 38th Annual Meeting

of the Cognitive Science Society (CogSci2016), Philadelphia, Pennsylvania, August 10-13, 2016.

8. Furusawa Tomohiro; Matsubayashi Mamiko; Satoh Tetsuji. Users' Preferences for Answer Forms to Reference Questions in Libraries. The 18th International Conference on Information Integration and Web-based Applications and Services (iiWAS 2016), 2016-11-28

9. Takeda Masaki; Matsubayashi Mamiko; Toshimori Atsushi. Understanding Undergraduate Students' Information Practices in Collaborative Work in Face-to-Face and Online Settings. The 7th Asia-Pacific Conference on Library and Information education and Practice (A-LIEP 2016), 2016-11-04

10. Kazufumi Inafuku, Takayasu Fushimi, Tetsuji Satoh: Extraction Method of Typical Purchase Patterns Based on Motif Analysis of Directed Graphs, Proceedings of 18th International Conference on Information Integration and Web-based Applications & Services, iiWAS2016, pp. 88-97, Grand Copthorne Waterfront Hotel, Singapore (Nov. 28 - 30, 2016).

11. Shuhei Yamamoto, Kei Wakabayashi, Noriko Kando, Tetsuji Satoh: Who are Growth Users?: Analyzing and Predicting Intended Twitter User Growth, Proceedings of 18th International Conference on Information Integration and Web-based Applications & Services, iiWAS2016, pp. 66-73, Grand Copthorne Waterfront Hotel, Singapore (Nov. 28 - 30, 2016).

12. Shuhei Yamamoto, Noriko Kando, and Tetsuji Satoh: Continuous Recipe Selection Model Based on Cooking History, Proceedings of 8th International Conference, SocInfo 2016, Part I, LNCS 10046, pp. 138 -151, Bellevue, WA, USA (Nov. 11-14, 2016).

13. Yu, H., Jatowt, A., Blanco, R., Joho, H., Jose, J., Chen, L., and Yuan, F. (2017)

“A Concise Integer Linear Programming Formulation for Implicit Search Result Diversification”. In: Proceedings of the 10th ACM International Conference on Web Search and Data Mining (WSDM 2017).

14. Yu, H, Jatowt, A., Blanco, R., Joho, H., Jose, J.M., Chen, L., and Yuan, F. (2016) “An In-depth Study of Implicit Search Result Diversification”. In: Proceedings of 12th Asia Information Retrieval Societies Conference, to appear, Beijing, P.R.C.

15. Joho, H., Jatowt, A., Blanco, R., Yu, H., and Yamamoto, S. (2016) “Building Text Collections for Evaluating Temporal IR”. In: Proceedings of the 39th International ACM SIGIR Conference on Research and Development in Information Retrieval, to appear, ACM.

16. Gurrin, C., Joho, H., Hopfgartner, F., Zhou, L., and Albatat, R. (2016)“NTCIR Lifelog: The First Test Collection for Lifelog Research”. In: Proceedings of the 39th

International ACM SIGIR Conference on Research and Development in Information Retrieval, to appear, ACM.

【査読付き国内会議】

17. 山本 修平, 神門 典子, 佐藤 哲司: 調理履歴に基づくユーザのレシピ選択モデルの提案, 情報処理学会 マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2016) シンポジウム, 5B-4, pp. 946 - 953, 鳥羽シーサイドホテル (July 6 - 8, 2016).

18. 柘植 大, 神門 典子, 佐藤 哲司: Reply ネットワークに着目した Twitter 投稿活動の変動予測, 情報処理学会 マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2016) シンポジウム, 8D-3, pp. 1656 - 1662, 鳥羽シーサイドホテル (July 6 - 8, 2016).

【国内学会発表】

19. 宋曦媚, 高久雅生: 検索意図を考慮したナビゲーション支援システム. 第 9 回 Web インテリジェンスとインタラクション研究会, 東京, pp.1-6 (2016-12)

20. 鈴木啓史, 松村敦, 宇陀則彦. 図書館における資料探索行動に着目したセレンディピティのある情報推薦システムの提案. 第 9 回 Web インテリジェンスとインタラクション研究会, p.27-28, 2016.

21. 古澤智裕, 松林麻実子, 佐藤哲司. レファレンス質問の回答形態に対する一般の人々の期待. 2016 年度日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集, p. 51-54, 2016.

22. 武田 悠佑, 佐藤 哲司: 被フォロー順序に基づくユーザの役割推定手法の提案, 電子情報通信学会 データ工学研究専門委員会 他共催, 第 9 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム DEIM2017, D1-2, 高山グリーンホテル岐阜県高山市 (Mar. 3-9, 2017).

23. 稲福 和史, 伏見 卓恭, 佐藤 哲司: 重み付きレビュー順序グラフに基づく購買行動パターンの分析, 電子情報通信学会 データ工学研究専門委員会 他共催, 第 9 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム DEIM2017, A3-4, 高山グリーンホテル岐阜県高山市 (Mar. 3 - 9, 2017).

24. 高田 叶子, 佐藤 哲司: 文体の類似度を考慮したオンライン小説推薦手法の提案, 電子情報通信学会データ工学研究専門委員会 他共催, 第 9 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム DEIM2017, B5-2, 高山グリーンホテル 岐阜県高山市 (Mar. 3 - 9, 2017).

【その他】

25. 松林 麻実子. オープンアクセスと大学図書館(第 5 分科会: 学術情報流通の現状と将来). 専門図書館 279 号 pp.75-79, 2016.

26. Ximei Song, Yuka Egusa, Hitomi Saito, Masao Takaku: IRCE at NTCIR-12 IMine-2

Task. The 12th NTCIR Conference (NTCIR-12), Tokyo, pp.55-59 (2016-06)

27. Joho, H., Jatowt, A., Blanco, R., Yu, H., and Yamamoto, S. (2016)“Overview of NTCIR-12 Temporal Information Access (Temporalia-2) Task”. In: Proceedings of the 12th NTCIR Conference, to appear, 7-10 June 2016, NII, Tokyo, Japan.

28. Gurrin, C., Joho, H., Hopfgartner, F., Zhou, L., and Albatal, R. (2016) “Overview of NTCIR-12 Lifelog Task”. In: Proceedings of the 12th NTCIR Conference, to appear, 7-10 June 2016, NII, Tokyo, Japan.

平成 27 年度

平成 27 年度は、国内外において精力的に以下の研究成果を報告した。

・ 情報プラクティス関連のパネル参加、招待講演、ワークショップ主催、サマースクール開催などを通して、研究コミュニティの発展に寄与(業績 [1][2][3][4][5][6][7][8])

・ 情報検索・探索に関する行動分析と現状システムの問題点の指摘と新しい検索様式の提案(業績 [5][8][9][10][12][15])

・ ライフログデータの収集手法の提案、レシピや学習データを用いたユーザモデリング手法の評価、高齢者や学生など多様なユーザ層の事例分析(業績 [1][2][16][17][18][19][20][21])

・ LOD や DOI など構造データの効果的アクセス手法の提案(業績 [6][13][14])

・ 高度なネットワーク分析を可能にするアルゴリズム開発(業績 [11])

【パネル・ワークショップ】

1. Cathal Gurrin, Håvard Johansen, Taro Tezuka (2015) Panel: Lifelong Digital Libraries, Joint Conference on Digital Libraries 2015 (JCDL 2015), June, 22, 2015, Knoxville, Tennessee.

2. Joho, H., Gurrin, C., and Hopfgartner, F. (2016) Interaction and Engagement for Information Research and Learning with Lifelogging Devices. In: Proceedings of iConference 2016, Philadelphia, PA, March 21, 2016.

3. O'Brien, H. L., Ferro, N., Joho, H., Lewandowski, D., Thomas, P., and van Rijisbergen, K. (2016). System And User Centered Evaluation Approaches in Interactive Information Retrieval (SAUCE 2016). In Proceedings of the 2016 ACM on Conference on Human Information Interaction and Retrieval (CHIIR' 16). ACM, New York, NY, USA, 337-340.

4. Ke, H-R and Joho, H. (2016) 2nd Asian Summer School in Information Access (ASSIA 2015), SIGIR Forum, 49(2), pp. 67-71.

【招待講演】

5. 齋藤ひとみ, 江草由佳, 高久雅生: 検索の前後における利用者のコンセプトマップの分析: 検索の有無による比較. Web インテリジェンスとインタラクション研究会 第 3 回ステージ発表; 東京; (2015-11)
6. 高久雅生: Linked Data の概要と課題. 第 63 回日本図書館情報学会研究大会シンポジウム; 東京; (2015-10)
7. Joho, H. (2015) Search Interface. 2nd Asian Summer School in Information Access (ASSIA 2015), 24-27 August, Taipei, Taiwan.
8. 上保秀夫.[招待講演] 寡黙な検索, 賑やかな検索.電子情報通信学会音声研究会 2015 年 8 月研究会.

【論文誌】

9. Joho, H., Jatowt, A., and Blanco, R. (2015) “Temporal Information Searching Behaviour and Strategies”. Information Processing and Management, 51(6), pp. 834-850.
10. Fukuzawa, R., Joho, H., and Maeshiro, T. (2015) “Practice and experience of task management of university students: Case of University of Tsukuba, Japan”. Education for Information, 31(3), pp. 109-124.

【国際会議プロシーディングス】

11. Taro Tezuka and Christophe Claramunt, Connectivity estimation of neural networks using a spike train kernel, Proceedings of the 2015 International Joint Conference on Neural Networks (IJCNN2015), pp.1-7, Killarney, Ireland, July 12-17, 2015.

【学会発表】

12. Song Ximei, Masao Takaku: Evaluation of real web search engines for diversified search intents. Asia Summer School in Information Access (ASSIA 2015); Taipei, Taiwan; (2015-08)
13. 吉川次郎, 高久雅生, 武田英明, 逸村裕: アクセスログに基づく DOI リンクの参照状況の分析: JaLC DOI を対象に. 三田図書館・情報学会 2015 年度研究大会; 東京; (2015-11)
14. 吉川次郎, 佐藤翔, 高久雅生, 逸村裕: 日本語版および英語版 Wikipedia における DOI リンクの重複分析. 第 14 回情報メディア学会研究大会; 京都; pp.27-30; (2015-06)
15. 渡辺葵, 高久雅生: うろ覚えマンガに対する質問分析の試み. 第 23 回情報知識学会年次大会; 東京; 情報知識学会誌; vol.25; no.2; pp.172-179; (2015-05)
16. 清野 悠希, 佐藤 哲司: 重心動揺と姿勢計測による学習状態の分析, 情報処理学会マ

ルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2015) シンポジウム, 3H-1, pp. 666 - 671, ホテル安比グランド (July 7 - 9, 2015).

17. 玉田 雄基, 佐藤 哲司: 栄養素に基づく代替レシピ推薦手法の提案, 電子情報通信学会 他共催, 第 8 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム, DEIM2016, E2-4, ヒルトン福岡シーホーク (Feb. 29 - Mar. 2, 2016).

18. 小林 正樹, 伏見 卓恭, 佐藤 哲司: 購買履歴を用いたユーザ行動モデルの推定, 電子情報通信学会 他共催, 第 8 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム, DEIM2016, D1-5, ヒルトン福岡シーホーク (Feb. 29 - Mar. 2, 2016).

19. 平松 淳, 山本 修平, 伏見 卓恭, 佐藤 哲司: レシピコミュニティにおける投稿傾向の分析, 電子情報通信学会, 技術研究報告, DE(データ工学), vol. 115, no. 230, DE2015-21, pp. 7-12 (Sep. 24, 2015).

20. Joho, H., Matsubara, M., Uda, N., Donkai, K., and Mizoue, C. (2016) "Lifelogging by Senior Citizens in a Highly Ageing Society: A Pilot Study. In: Proceedings of the Information Research and Learning with Lifelogging Devices: An Interactive and Engagement Session at iConference 2016 (IRLLD 2016), 21 March, Philadelphia, PA.

21. Nagaoka, N., Furuhashi, Y., Minei, N., and Joho, H. (2016) "Lessons Learned from 8 Months of Lifelogging: Case of 2nd Year Undergraduate Students at the University of Tsukuba, Japan". In: Proceedings of the Information Research and Learning with Lifelogging Devices: An Interactive and Engagement Session at iConference 2016 (IRLLD 2016), 21 March, Philadelphia, PA.

平成 26 年度

平成 26 年度は、主に以下の研究成果を報告した。

- ・ ユーザの情報行動分析手法に関して、認知的な手法や工学的な手法の提案とその効果の検証(業績 [3][5][6])
- ・ 学習者や教育者の実践行動に焦点を当てた支援技術の開発とその効果の検証(業績 [1][7][8][12])
- ・ ユーザの行動データに基づいた検索手法や推薦手法の開発とその効果の検証(業績 [9][10][11][13][14])
- ・ 多様な文脈におけるインタラクションやコラボレーションにおける音楽や物語の影響に関する研究(業績 [4][8][15])
- ・ QA サイトにおける質問行動の分析と効果的な意見分析手法の考察(業績 [3][16])
- ・ ライフログデータのプライバシー保護に関するシステムの枠組みの提示(業績 [2])

【招待講演】

1. Joho, H. (2014) Task Management Behaviour of University Students. School of

Computing, University of Glasgow, UK. 2014.09.04.

【学術書】

2. Gurrin, C., Albatal, R., Joho, H., and Ishii, K. (2014) A Privacy by Design Approach to Lifelogging. In: K. O'Hara et al (Eds.) Digital Enlightenment Yearbook 2014, pp. 49-73, IOS Press.

【論文誌】

3. 関 洋平. コミュニティ QA における意見分析のためのアノテーションに関する一 検討. 自然言語処理, 21(2), pp.271-299, 2014-04.

4. 松村敦, 根岸舞, 宇陀則彦. 絵本の読み聞かせ後の問いかけが子どもの物語理解とイメージ形成に与える影響. 日本教育工学会論文誌, 2014, vol.38(Suppl.), p.157-160.

5. Yamaguchi, Y., Yamamoto, S., and Satoh, T. (2014) Behavior analysis methods for Twitter users based on transitions in posting activities. International Journal of Web Information Systems, Vol. 10 Iss: 4, pp.363 - 377

【国際会議プロシーディングス】

6. Egusa, Y., Takaku, M., and Saito, H. (2014) How Concept Maps Change if a User Does Search or Not? Proceedings of the 5th Information Interaction in Context Symposium (IIIX '14), pp.68-75, 2014-08.

7. Khan, N. and Joho, H. (2014) Development of Multimodal Tool to Support Second Language Classroom: Case of Japanese. In: Proceedings of the 22nd International Conference on Computers in Education (ICCE 2014), pp.723-732, Nara, Japan.

8. Mori, F., Naghsh, F. A. and Tezuka, T., (2014) The effect of music on the level of mental concentration and its temporal change, Proceedings of the 6th International Conference on Computer Supported Education (CSEDU2014), Barcelona, Spain.

9. Seki, Y. and Ono, K. (2014). Discriminating practical recipes based on content characteristics in popular social recipes. In Proceedings of the 2014 ACM International Joint Conference on Pervasive and Ubiquitous Computing: Adjunct Publication (UbiComp '14 Adjunct). ACM, New York, NY, USA, 487-496.

10. Takaku, M., and Egusa, Y. (2014) Simple Document-by-Documnt Search Tool "Fuwatto Search" Using Web API. Proceedings of the 16th International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL 2014), pp 312-319, Chiang Mai, Thailand.

【国内学会発表】

11. 安部 高城; 佐藤 哲司. ソーシャルメディアにおけるセレンディピティを考慮したユー

ザ推薦手法の提案.第 7 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム,
DEIM2015/2015-03

12. 門脇直哉, 松村敦, 宇陀則彦. 認知的葛藤を生起させる e-Learning システムの効果
の検証. 情報処理学会第 77 回全国大会講演論文集 (4), 2015, p.697-698.

13. 玉田 雄基; 佐藤 哲司.ユーザのアクティビティに基づいた健康支援システムの提案第
7 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム, DEIM2015/2015-03

14. 中岡 義貴; 佐藤 哲司.調理レパートリー拡大のためのレシピ推薦手法の提案と評価.第
7 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム, DEIM2015/2015-03

15. 橋本昌枝, 松村敦, 宇陀則彦. 物語音楽における議論の関係性を可視化するシステム.
情報処理学会第 77 回全国大会講演論文集 (1), 2015, p.561-562.

16. 古澤智裕, 松林麻実子, 佐藤哲司, 図書館におけるレファレンス質問と Q&A サイトに
おける質問の差異, 第 7 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (第 13 回
日本データベース学会年次大会), 2015 年 3 月